

Title	沼津市口野洞高貝層発見の鹿角製品について
Sub Title	A research report on antler-tools artifacts excavated from the Forataka Fossil Mollusca beds in Kuchino Numazu City
Author	笹津, 備洋(Sasatsu, Masahiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.37, No.2 (1964. 8) ,p.123(239)- 125(241)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	史料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640800-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

沼津市口野洞高貝層発見の鹿角製品について

笹 津 備 洋

駿河湾の最奥部、内浦湾の最も深く湾入した部分に当る沼津市口野の海岸から発見された鹿角製品二例を紹介する。

一九六一年、一月一九日、建設省狩野川工事事務所長田中理夫氏の連絡を受け、筆者と同僚小野真一氏とが現地を訪れ簡単な調査を行った。

同所は一九五八年の狩野川台風が大惨害をもたらしたため、再度の災害を防ぐべく、長岡町壩ノ上から沼津市口野字洞高まで開鑿された、狩野川放水路の放水口に接する地点である。放水路開鑿に伴つて、旧来の県道が切断された為、放水口上に橋を架けることになり、その橋脚の基礎工事の際に海面下から貝の堆積層が発見されたのであつた。

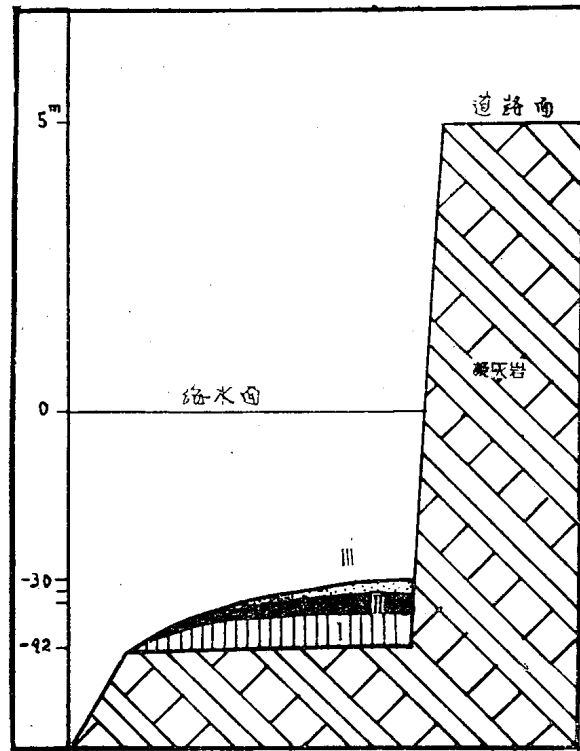
口野の東側は標高四、六十メートルの低い丘陵が海岸

沼津市口野洞高貝層発見の鹿角製品について

に接して南北に走り、田方平野との間を区切つている。この丘陵の裾は断崖となつて海に落ち込んでいるが、この崖の水面下の部分に貝層が存在したのである。

第一図の如くほぼ垂直な凝灰岩の岩塊が水面上五メートルの崖をなし、更に水面下約四・二メートルで巾五メートル程の棚を作つて更に深く下降している。この棚の上に貝類・化石類が堆積している。第I層はキクメイシの化石層、第II層はキクメイシ・サンゴ類・貝類の化石層、第III層は破碎貝層である。この堆積層から検出された化石及び貝類は次の表の如くである。工事中に採取されたため層位別は不明、種の判別出来ないものが約十種類ある。この化石及び貝の堆積を我々は洞高貝層と呼んでいる。

- | | | | | | | | | |
|----------|----------|--------|--------|----------|-------------|--------|--------|-------|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ヨツアナカンパン | オオタコノマクラ | タコノマクラ | イボヤギ | モドキ | ムラサキフチアナサンゴ | タバネサンゴ | カワラサンゴ | キクメイシ |
| 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 |
| カバトゲウミギク | シロインコガイ | コニクタケ | スクミウズラ | シロニセイボガイ | タカラガイ | セコバイ | ツメタガイ | フジツボ |



第一図 堆積層見取図

- | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|-------|
| 23 | 22 | 21 | 20 | 19 |
| アツカガミガイ | ケシザルガイ | ミノガイ | ナガザルガイ | オオユミノ |
| 27 | 26 | 25 | 24 | |
| オガタザクラ | オオトリガイ | オフクハマグリ | ワカカガミガイ | |

この洞高貝層の中から次のような人工遺物が採拾されている。

- | | | |
|---|----------|----|
| 1 | 加曾利B式土器片 | 1片 |
| 2 | 管状土錘 | 4点 |
| 3 | 鹿角製品 | 3点 |
| 4 | 陶器片 | 1片 |

加曾利B式土器片は第I層の最下部から発見され、壺型土器胴部破片で磨消縄文が施されている。管状土錘(第二図)は、第II層中から採拾されたものらしくその形態から推して、丘陵を越えた東側の珍野遺跡註1の側と同じく弥生後期又は土師器の初頭に伴うものである。

鹿角製品(第三図)1は、用途不明、くびれ部、及び裏面は金属器によつて加工されている。2は大形の釣針と思われ、糸掛けの上端と針の先端を欠いている。これも金属器による加工が認められる。両者共に第II層中か

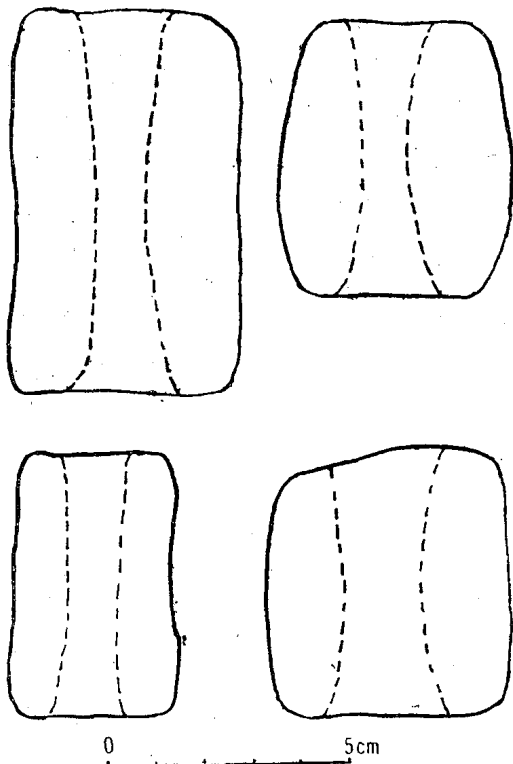
ら発見されたものらしい。管状土錘と同一時期のものと考えて矛盾しないと思われる。

陶器片は、淡黄色の袖薬の施された厚さ一センチ程の高台のついた底部で、第I層から発見されたらしい。

工事中の発見によるため、発見状態は精確にわからないが、上述の状況から推して古くから船留りのような場所として利用されていたのではないかと推察される。

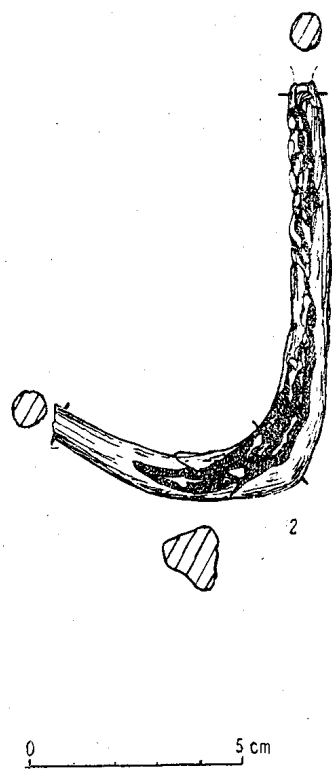
発見遺物中、特に鹿角製品は、貝塚の存在しない駿河湾沿岸では、大変珍しい資料である。

又第三図1の鹿角製品は寡聞にして例品を知らない



第二図 管状土錘

沼津市口野洞高貝層発見の鹿角製品について



第三図 鹿角製品

が、大方の御教示を得られれば幸甚である。

注1 小野真一、笹津備洋「伊豆国珍野遺跡略報」沼津女子商業高校考古館報2 昭和37年、
追記 遺物は沼津女子商業高校考古館に所蔵している。